

Strix 5 : 23-29(1986)

育素多沼の鳥類¹

日本野鳥の会十勝支部²

はじめに

育素多(いくそた)沼は十勝川下流部、河口から20kmの左岸近くにある面積18haの沼である。十勝川下流部沿いでは、これまで長期間にわたって治水や農耕地の拡大のために河川改修や沼の埋立てが行われてきており、現在ではこの沼の周囲も農耕地となっている。一時、北海道開発局の十勝川浚渫事業の一環として、浚渫した土砂でこの沼を埋立る計画があった。しかし、この沼は、春と秋に多くのヒシクイやオオハクチョウが渡来するため、渡り鳥の中継地として重要であるということから、この計画は中止された。ただ、この計画が明らかになった時点で、この沼が渡り鳥の中継地や水鳥の生息地として重要であることを示すような公表された資料がなかった。そこで私たちの支部は育素多沼の鳥類を調査し、その結果を発表することにした。

この調査をまとめるにあたり、ヒシクイの観察記録を使用させていただいた雁を保護する会、植生調査にご協力いただいた野洲健治、大原武の両氏にお礼申しあげる。なお、この調査にあたっては、日本野鳥の会の昭和58年度支部事業補助金を受けた。

調査地と調査期間

育素多沼は南北に細長く、長さ800m、幅250m、面積18haである。本来の沼用地とされていた部分はこれより広いが、これまでに周囲が埋立てられて農耕地となり、現在の面積となった。そのために沼の周囲のヨシ原の部分は幅狭く、水辺から数m-50mの範囲しかない。沼の岸沿いにはヨシ、ガマ、沼の中のやや浅い所にはフトイ、水深70-100cmのところにはヒシ、ネムロコウホネ、タヌキモなどの植物が生育している。沼に流入する川はなく、沼の北側に農地を流れる排水溝が流れ込み(ふだん水量は少ない)、南側からは排水溝が流れ出ているが、年間を通して大きな水位の変化はなかった。沼では11月下旬から12月初めにかけて凍結しはじめ、3月下旬から4月上旬にかけて開水面が現れはじめる。沼の水質はTable 1に示すとおりである。これらの値を環境庁が定めた水質汚濁に係る環境基準(環境庁水質規制課1982)のうち湖沼の水質基準類型C(工業用水2級・環境保全)と比べると、水素イオン濃度(PH)、浮遊物質量(SS)、容存酸素量(DO)は基準内であるが、化学的酸素要求量(COD)は基準外である。

調査を行ったのは1983年であるが、調査回数が少なかったため、1984、1985両年にも同様の調査を行い、各月の調査回数を2-7回とした。ただし沼が凍結する12月には1回の

1986年9月2日受理

1. 執筆者: 藤巻裕蔵、〒080帯広市稲田町西2線13

2. 〒080 帯広市稲田町 帯広畜産大学野生動物管理学研究室

Table 1. Water quality of the Ikusota Pond in 1983 (mg/l).
表1. 育素多沼の水質

	Jul. 24	Aug. 27	Oct. 1	Oct. 23	Nov.27
PH	6.5	6.3	6.6	6.6	6.6
DO	8.34	8.63	8.8	11.5	12.3
BOD	0.4	3.0	0.1	0.6	1.5
COD	15.0	24.0	22.3	20.9	23.7
SS	1	5.5	ND	2.4	ND
NH ₄	0.23	0.15	ND	ND	0.04
NO ₃	5.33	22.8	12.0	4.28	9.14
Na ⁺	4.84	9.32	9.79	9.56	9.78
Ca ²⁺	10.5	34.4	33.8	27.1	1.59
Cl ⁻	10.8	9.6	10.8	11.2	11.5
SO ₄ ²⁻	97.3	99.8	105	87.0	54.6
SiO ₂	8.64	17.2	23.8	9.92	5.56

ND: No data

調査を行い、1～3月には調査を行わなかった。なお、1982～1984年にはこの沼のある豊頃町全域は休猟区となっており、1985年にはこの沼を含む85haが危険防止のために銃猟禁止区となっていた。

育素多沼の鳥類の調査は、西側と東側の岸から行ったが、これらの地点からは沼のほぼ全域が見わたせるので、鳥が岸沿いのヨシの中に隠れている場合以外は見落としはないと思われる。この沼に飛来する鳥類は、この沼の東側から南側にかけてある旧利別川や西側の十勝川河川敷も利用するので、ヒシクイ、オオハクチョウ、タンチョウの生息数については随時この沼以外でも調査を行ない、その結果も用いた。調査に参加した会員は、上田一視(水質担当)、小野登志和、曾根謙次郎、土田光子、徳永晃、新田和弘、藤巻裕蔵、村上寿之、若杉節である。

結果と考察

育素多沼で観察された鳥類はカイツブリ類3種、サギ類2種、ガン・カモ類16種、タンチョウ、カモメ・アジサシ類3種の計25種である(Table 2)。

カイツブリ類のうち、カイツブリとアカエリカイツブリの2種は夏鳥である。カイツブリは8～11月に見られたが少なく、ここで繁殖している様子はなかった。9月にやや多く見られたことがあっただけである。アカエリカイツブリは4月上・中旬に渡来し、10月下旬までには渡去する。ここでは1～2つがい繁殖し、8月には幼鳥が加わって数が増加した。ハジロカイツブリは10月中旬以降に見られたが、数は少なかった。

チュウサギは1983年11月13、20両日に1羽が見られただけである。十勝地方でシラサギ類は夏に稀に渡来することがあり(Iijima 1984)、今回の個体もこのような個体が遅くまで残ったものであろう。アオサギはこの沼の上をよく通過するが、沼に飛来する個体は少なかった。この沼の東8kmにある浦幌町稲穂にはアオサギのコロニーがあり、ここから飛来するものと思われる。

ガン類はヒシクイが主で、マガンは1985年4月14日に18羽が記録されただけである。ヒ

Table 2. Bird species and their number (mean and range) on the Ikusota Pond.
表2. 育素多沼で記録された種と個体数.

	Apr.	May	June	July	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.
Number of censuses	7	3	2	3	4	5	4	7
カイツブリ <i>Podiceps ruficollis</i>	0	0	0	0	0-1 (0.3)	0-10 (2.4)	0-2 (0.5)	0-2 (0.4)
ハジロカイツブリ <i>Podiceps nigricollis</i>	0	0	0	0	0	0	0-5 (1.5)	0-4 (0.6)
アカエリカイツブリ <i>Podiceps griseogen</i>	1-3 (1.1)	2-4 (3.0)	3-4 (3.5)	2-5 (3.3)	6-8 (6.5)	2-8 (3.8)	0-1 (0.3)	0
チュウサギ <i>Egretta intermedia</i>	0	0	0	0	0	0	0	0-1 (0.3)
アオサギ <i>Ardea cinerea</i>	0	0-1 (0.3)	0	0	1-2 (1.0)	0-3 (0.6)	0	0
マガン <i>Anser albifrons</i>	0-18 (2.6)	0	0	0	0	0	0	0
ヒシクイ <i>Anser fabalis</i>	23-356 (263.7)	0-3 (0.6)	0	0	0	0-2 (0.4)	0-20 (4.0)	0-5 (1.0)
オオハクチョウ <i>Cygnus cygnus</i>	68-256 (162.3)	0-8 (2.4)	0	0	0	0-2 (0.4)	0-6 (1.8)	0-26 (11.1)
マガモ <i>Anas platyrhynchos</i>	0-1 (0.2)	0	0	0-2 (0.7)	0-15 (5.5)	11-213 (63.2)	28-334 (153.0)	21-500 (160.6)
カルガモ <i>Anas poeilorhyncha</i>	0	0	0	0	0-14 (4.8)	0-19 (10.4)	0-20 (7.3)	0
コガモ <i>Anas crecca</i>	0-12 (2.4)	0	0	0	0	0-18 (5.2)	0-20 (7.3)	0-6 (0.9)
ヨシガモ <i>Anas falcata</i>	0-5 (1.3)	0	0	0	0-4 (2.5)	10-61 (18.2)	5-30 (12.5)	0-1 (0.1)
ヒドリガモ <i>Anas penelope</i>	6-103 (30.2)	0	0	0	0	0-33 (6.6)	2-12 (6.8)	0-20 (3.1)
オナガガモ <i>Anas acuta</i>	0-322 (143.8)	0	0	0	0	0-66 (13.8)	0	0
ハシビロガモ <i>Anas clypeata</i>	0	0	0	0	0	0-1 (0.2)	0	0
ホシハジロ <i>Aythya ferina</i>	0-3 (0.5)	0	0	0	0	0-15 (3.0)	1-13 (6.0)	0-5 (1.0)
キンクロバジロ <i>Aythya fuligula</i>	148-262 (159.7)	0-23 (10.7)	0	0	0	39-119 (74.8)	118-466 (245.8)	0-158 (65.9)
スズガモ <i>Aythya marila</i>	0-2 (0.3)	0	0	0	0	0-19 (3.8)	0	0-64 (10.3)
ホオジロガモ <i>Bucephala clangula</i>	0	0	0	0	0	0	0	1-48 (6.9)
ミコアイサ <i>Mergus albellus</i>	0	0	0	0	0	0	0-5 (1.3)	0-6 (2.9)
カワアイサ <i>Mergus merganser</i>	0	0	0	0	0	0	0	1-0 (0.1)
タンチョウ <i>Grus japonensis</i>	0	0	0-1 (0.5)	0	0	0	0	0
ユリカモメ <i>Larus ridibundus</i>	0	0	0	0	0	0-3 (0.6)	0	0-3 (0.4)
カモメ <i>Larus canus</i>	0-13 (1.9)	0	0	0	0	0	0	0
アジサシ <i>Sterna hirundo</i>	0	0	0	0	0	0-1 (0.2)	0	0

シクイは春と秋に渡来する。日中これらは沼に少なく、主に十勝川河川敷で採餌しており、夕方になると沼に飛来する。例えば、1984年4月22日の夕方沼に飛来したヒシクイの累積数をあげると、15:30 30羽、16:60 87羽、17:45 144羽、18:00 200羽、18:15 282羽、18:30 306羽(これ以降は暗くなり観察不能)であった。Table 2 に示した沼への飛来数は4月に多く、秋には少なくなっている。しかし、これは沼で観察した時に少なかっただけで、その周辺地域を含めると春と同様に多かったことが雁を保護する会の調査結果(Table 3)から明らかである。このように、ヒシクイは沼でも採餌するが、主にねぐらとして沼を使っている。オオハクチョウは、沼の氷がとける前から少数が渡来したが定着せず、4月になり開水面ができてから数多く渡来した。1983年4月にここで観察された標識鳥のうち2C79は1982年11月6日から1983年2月1日まで大湊湾で越冬しており、2C98は2月13日に野辺地海岸、3月18日～4月5日に育素多沼の北西27kmにある旧途別川で観察された個体である(日本白鳥の会 1984)。これ以前にも特徴のある色をつけた1羽が渡去時期に旧途別川から育素多沼に移動した例がある。4月上旬に旧途別川のオオハクチョウが渡去する時期から沼の個体数が多くなるが、ここに渡来するものの一部はそれまで旧途別川で越冬していたものであろう。沼でのオオハクチョウの数の変化を日本白鳥の会(1984, 1985, 1986)の資料も含めてTable 4に示す。最高数は4月中～下旬の200～250羽であった。渡去は5月上旬である。秋の渡来は10月中・下旬であったが、1984年には9月中旬に少数が渡来した。秋には個体数は少なく、あまり長くはいなかった。

カモ・アイサ類は13種であったが、沼に繁殖期中ずっと生息していた種はおらず、主に春と秋に渡来した。しかし、マガモ、カルガモ、ヨシガモはこの沼の付近で繁殖していると思われ、7～8月にはすでに沼に出現した。個体数が多かった種は、4月にはオナガガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロで100～300羽、9～11月にはマガモとキンクロハジロで100～500羽であった。

1984年にはタンチョウの成鳥2羽がこの沼や十勝川河川敷で繁殖期に観察されたが、繁殖している様子は見られなかった。これ以外には、主に秋に数羽が沼周辺のデントコーンやアズキの収穫後の畑に飛来して採餌するのが観察された(Table 5)。個体数は2羽のことが多く、秋には2～7羽となった。

Table 3. The number of *Anser fabalis* counted on the Ikusota Pond and its surrounding area.

表3. 育素多沼および周辺のマガモの数。

1983		1984		1985	
Apr. 5	540	Apr. 16	381	Apr. 16	166
8	470	22	306	Sep. 7	100
10	260	Sep. 15	500	15	421
15	285	Oct. 9	24	29	552
20	93	11	300	Oct. 3	229
May. 4	3			10	230
Oct. 30	20			15	24
Nov. 15	2				
20	5				

Table 4. The number of *Cygnus cygnus* counted on the Ikusota Pond and (4) its surrounding area.

表4. 育素多沼および周辺のオオハクチョウの数.

1983		1984		1985	
Apr.	5 68	Apr.	8 24	Apr.	14 224
	8 125		16 196	Oct.	19 10
	10 123		22 256	Nov.	6 7
	20 243		24 196		
	24 170	May.	2 6		
May.	4 8	Sep.	15 2		
	12 4	Oct.	11 1		
Oct.	30 20	Nov.	11 25		
Nov.	13 15		21 25		
	14 26				
	15 19				
	20 26				

Table 5. The number of *Grus japonensis* counted on the Ikusota Pond and its surrounding area.

表5. 育素多沼および周辺のタンチョウの数.

1983		1984		1985	
Apr.	21 1	Apr.	16 1	Jun.	12 2
Aug.	29 2		25 1		26 2
Sep.	4 2	May.	13 2	Aug.	29 2
Nov.	14 7	Jun.	3 2		
	20 3	Oct.	11 2		
Dec.	4 3		21 2		
	22 2	Nov.	11 2		

カモメ・アジサシ類では、春と秋に少数のユリカモメ、カモメ、アジサシが一時的に出現しただけである。これらは十勝川沿いに海岸から飛来したものであろう。

この他に調査期間中に沼の周辺の農地や防風林、十勝川河川敷で観察された鳥類は、トビ、オジロワシ、ハイロチュウヒ(1983年4月8日)、チコハヤブサ、マナヅル(1984年5月27日、6月12日、ともに2羽)、タゲリ(1983年4月6日、2羽)、イソシギ、オオジシギ、キジバト、カッコウ、アカゲラ、コアカゲラ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、モズ、ノゴマ、ノビタキ、アカハラ、ツグミ、エゾセンニュウ、シマセンニュウ、マキノセンニュウ、コヨシキリ、エナガ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ホオアカ、シマアオジ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、ニュウナイスズメ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラスの41種であった。このうちタゲリとマナヅルは十勝地方では初記録である。またオジロワシについては十勝地方における生息状況をすでに報告してある(日本野鳥の会十勝支部 1983)。

十勝地方では、育素多沼以外にも生花苗沼にマガンが、長節沼と湧洞沼にヒシクイが渡来するが、これらの沼では渡来数は秋に多く、春には育素多沼ほど多くない(正富ほか

1978). オオハクチョウは旧途別川や途別川で越冬するが(日本白鳥の会 1985, 1986), 北上のときさらに南で越冬したオオハクチョウとともに4月末~5月初旬までと秋の南下のときに育素多沼に滞在する。この他にも春と秋には多くカモ類が飛来する。また秋には周辺の畑にタンチョウが採餌に飛来し、この沼や旧利別川をねぐらとしている。このような点で、育素多沼はこれらの鳥類の渡りの中継地、ねぐらとして重要であるといえる。ただし、渡来期間中は、この沼だけではなく、近くの十勝川左岸の河川敷や旧利別川も利用されており、とくに十勝川河敷は採餌場所としてよく利用されていた。しかし現在十勝川右岸の河川敷はほとんど放牧地となっており、左岸ほどガン、ハクチョウ類に利用されてはいなかった。1985年には銃猟禁止区域に指定されたが、この区域周辺で狩猟が行われたため、一部の鳥類の生息状況に影響が現れた。すなわち、秋に沼にオオハクチョウが飛来するものの、落ち着かずすぐ渡去してしまうこと、畑に飛来するタンチョウが少くなり、飛来してもすぐに去ってしまうことなどがあげられる。

渡り鳥の生息地の保全のためには、育素多沼とその周辺地域、十勝川河川敷も含め、将来は鳥獣保護区とすることを考慮する必要がある。

要 約

1. 十勝川下流沿いにある育素多沼(面積18ha)とその周辺で1983~1985年に鳥類の調査を行った。
2. 調査期間中、この沼ではカイツブリ類3種、サギ類2種、ガン・カモ類16種、タンチョウ、カモメ・アジサシ類3種の計25種の鳥類が記録された。
3. この他にこの沼の周辺地域で、ワシ・タカ類4種、シギ・チドリ類3種、キジバト、カッコウ、キツッキ類3種、スズメ目鳥類29種が観察された。
4. この沼とその周辺地域はヒシクイ、オオハクチョウの渡りの中継地、タンチョウの生息地として重要である。

文 献

- Iijima, Y. 1984. Sight records for *Bubulcus ibis*, *Egretta alba*, *E. intermedia* and *E. garzetta* in Taiki, Hokkaido. 鳥, 33:44-46.
- 環境庁水質規制課. 1982. 水質測定実務便覧. p226.
- 日本白鳥の会. 1984. 第10回ハクチョウ類定時定点調査結果(1982-1983年). 日本の白鳥, 10: 102-135.
- 日本白鳥の会. 1985. 第11回ハクチョウ類定時定点調査結果(1983-1984年). 日本の白鳥, 11: 63-91.
- 日本白鳥の会. 1986. 第12回ハクチョウ類定時定点調査結果(1984-1985年). 日本の白鳥, 12: 57-97.
- 日本野鳥の会十勝支部. 1983. 北海道十勝地方におけるオジロワシの分布. Strix, 2: 53-58.
- 正富宏之・藤巻裕蔵・川辺百樹・橋本正雄・中田千佳夫. 1978. 湧洞沼及びその周辺の鳥類相. 野鳥生息環境実態調査報告書-湧洞沼-, 43-76.

Birds of the Ikusota Pond, Tokachi District, Hokkaido

Tokachi Chapter, Wild Bird Society of Japan

From 1983 to 1985 a bird survey was conducted on the Ikusota pond in the lower reaches of the Tokachi River, eastern Hokkaido, and its surrounding area. Twenty-five species were observed including 3 species of grebes, 2 species of egret and heron, 16 species of anserines, *Grus japonensis*, 2 species of gulls and *Sterna hirundo*. In addition, 41 bird species were observed in the surrounding area: *Mirvus migrans*, *Haliaeetus albicilla*, *Circus cyaneus*, *Falco subbuteo*, *Grus vipio* (2 birds, on May 27 and June 12, 1984), *Vanellus vanellus* (Apr. 6, 1983), *Tringa hypoleucos*, *Gallinago hardwickii*, *Streptopelia orientalis*, *Cuculus canolus*, *Dendrocopos major*, *D. minor*, *D. kizuki*, *Alauda arvensis*, *Riparia riparia*, *Motacilla alba*, *Lanius bucephalus*, *Erithacus calliope*, *Saxicola torquata*, *Turdus chrysolus*, *T. naumanni*, *Locustella fasciolata*, *L. ochotensis*, *L. lanceolata*, *Acrocephalus bistrigiceps*, *Aegithalos caudatus*, *Parus palustris*, *P. major*, *Sitta europaea*, *Emberiza fucata*, *E. aureola*, *E. spodocephala*, *E. schoeniclus*, *Carduelis sinica*, *Uragus sibiricus*, *Coccothraustes coccothraustes*, *Passer rutilans*, *P. montanus*, *Sturnus philippensis*, *S. cineraceus*, *Corvus corone* and *C. macrorhynchos*. Of these, *G. vipio* and *V. vanellus* were recorded from Tokachi District for the first time. The Ikusota Pond area is an important habitat for migrating waterfowl, especially *Anser fabalis* and *Cygnus cygnus*.

Laboratory of Wildlife Resource Ecology, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine, Obihiro, 080.